

雪印が
お奨めする
育成選抜品種の解説
エンドウ(雪印改良三十日絹莢)

(一) 育成選抜の目的及び経過

北海道はエンドウを始め各種豆類の生産として戦前から重要な地位を占めていたが、戦争による生産体型の混乱により質が大分低下し不評をうけた。戦後、質の向上のために原々種の育成に力を入れ始めた

が、エンドウについて見ても当時は硬莢を除くのに精一杯の状態であった。その後、電光等の系統が発表されるようになり、幣社上野幌育種場ではこれにさががけ、低節位で開花し、大莢でしかも豆がかなり太っても柔らかい系統を育成する目的で個体選抜をくりかえし、さらに数世代系統選抜を

(二) 特性概要

かさねて発表したのが雪印改良三十日絹莢豌豆である。

在来種にくらべ草姿の差

は少ないが、初期の生育良く、低節位から着花、着莢する。第一開花節位の平均が六・八節と低い極早生種である。さらに本種の特長は莢の大きいこと、長さ、幅とも電光、在来種にまさり、極めて優美で、子実が

太っても柔らかく、食味もすぐれ、子実も比較的大粒なのでムキミとしても品質が良い。

(三) 栽培上の注意

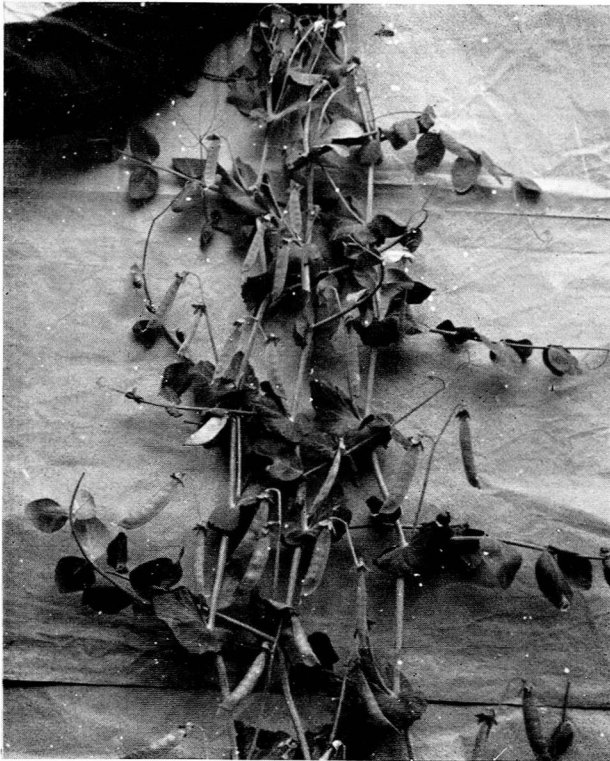
本種は初期の生育早い、分枝数少ないため、一見弱々しく見える。従って初期の肥効をたかめる様施肥することが大切である。条播に近い程度に密播すれば、低節位着莢の特性を生かし、早期多収がえられ、又支柱ののほりも良くなる。

寒地にては春播が主体となり、秋播は出

エンドウ品種比較

| 品 種 名 | 草 丈 | 第一開花節位 | | 着莢数 | 双莢数 | 若 莢 長 | 莢 幅 | 一株若莢最多莢 | |
|-----------|-----|--------|-----|-----|-----|-------|-----|---------|-----|
| | | 花節位 | 分枝数 | | | | | 平均 | 重粒数 |
| 雪印改良三十日絹莢 | 一五〇 | 六・八 | 〇・四 | 三・八 | 二・六 | 八・三 | 一・五 | 四・一 | 八・九 |
| 在 来 絹 莢 | 一五〇 | 八・五 | 〇・三 | 八・三 | 〇・五 | 六・八 | 一・四 | 四・五 | 六・八 |
| 電 光 絹 莢 | 一四〇 | 七・二 | 〇・三 | 二・四 | 六・三 | 六・五 | 一・三 | 三・九 | 五・八 |

播種四月三十日、着莢数及び一株若莢平均重は七月十五日調査



低位節から良く着莢し、莢の大きい雪印改良三十日絹莢



生育中の雪印改良三十日絹莢

来ないが、早春、果菜前作のトンネル栽培、移植栽培に好適している。東北では十一月〜十二月にかけて降雪直前に播種するいわゆる、不発芽播を行なえば翌春の収穫を早められる。暖地にては秋、早春播品種として優秀さが認められている。